

## 令和6年度(2024年度) 事業報告

### 1. 事業推進部

- ①高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)
- ②高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)
- ③香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)
- ④香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)
- ⑤高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)
- ⑥香川県 女性が輝くリーダー養成事業(女性リーダー)
- ⑦高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)
- ⑧香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)
- ⑨香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)
- ⑩香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)
- ⑪香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション) **新規**
- ⑫子育て情報誌『おやこ DE わはは』 特別号(2回発行)
- ⑬わははファミリーフェスティバル
- ⑭子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業

### 2. おもちゃ美術館事業部

### 3. 子育て支援部

- (1)わはは・ひろば高松
- (2)わはは・ひろば高松 / たかまつ子育て支援コーディネーター事業
- (3)わはは・ひろば香西
- (4)わはは・ひろば坂出
- (5)さかいで子育て支援センター / センター業務
- (6)さかいで子育て支援センター / まろっ子ひろば(子育て支援拠点業務)
- (7)さかいで子育て支援センター / さかいで子育て支援コーディネーター業務
- (8)さかいで子育て支援センター / 一時預かり業務

## 事業推進部

### 【1】 行政からの受託事業

#### ①高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,113,200 円	3 人	-	1,113,200 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① サイト情報更新	・「たかまつらっこ」冊子の改定内容を、サイトに反映 ・必要に応じて「らっこネットらのお知らせ」を更新			5
② 運営・保守管理	・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般 ・SSL 認証への対応を実施			5

【特筆すべき事項等】 ・サイトセッション数:57,275 ページビュー数:122,437

#### ②高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,657,700 円	3 人	-	1,657,700 円	5
実行して成果があがったこと				評価
② サイトの情報更新・運営・保守管理	・「たかまつひとり親家庭サポートブック」の改訂内容を、サイトに反映 ・メール相談への回答依頼、返信業務 ・セキュリティ管理を含む、サイト運営全般			5
③ 冊子改訂増刷	・ひとり親家庭向け情報誌「たかまつひとり親家庭サポートブック」の情報更新確認及び冊子への反映、増刷業務 (A5 版 40 ページ 3,000 部発行)			5

【特筆すべき事項等】

・サイトセッション数:18,395 ページビュー数:27,027

・令和 6 年度たかまつひとり親家庭サポートブック 令和 6 年 8 月 1 日 3,000 部発行

#### ③香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,738,000 円	5 人	-	8,822,365 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 子育て支援員研修	・4 コース 8 事業の研修実施運営 ・コース内容説明動画制作 ・広報受付業務 ・受講者への個別相談対応 ・フォローアップ研修の実施			5
② 放課後児童支援員認定資格研修	・受講者受付対応(受講資格の確認) ・中讃会場、高松会場 2 会場での実施			5

【特筆すべき事項等】

・子育て支援員研修 7 月 3 日～12 月 2 日の期間で実施 申込 286 人 受講修了者 205 人+フォローアップ研修

・放課後児童支援員認定資格研修 高松会場 51 人(修了者 49 人)/中讃会場 38 人(修了者 33 人)

#### ④香川県 ライフデザイン事業(高校生ライフデザイン)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,334,000 円	5 人	-	1,338,183 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① ライフデザイン講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 回 45 分～100 分で 40 人程度の人数を対象にした講座を実施。</li> <li>・合計 800 名程度の参加者を対象(県の方で希望調査・とりまとめ)</li> <li>・キャリアコンサルタント保持者 1 名+1～2 名の子育て支援スタッフで実施</li> <li>・高校側の希望に応じて、助産師と協働での事業実施</li> <li>・1 時間の講義希望の学校に対して、助産師からの主に妊孕力に関する説明動画を制作の上、活用</li> <li>・アンケートを実施し、結果については「colorful」に掲載</li> </ul>			5

##### 【特筆すべき事項等】

・県内 5 校(坂出商業高校・桜井高校・三木高校・高松高校・高松中央) 31 クラス 829 人実施

#### ⑤高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
400,000 円	10 人	-	403,991 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① ふれあい体験授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の親子と中学校を訪問し、子育ての現状や親の思いについて話す機会を持つとともに、中学生に赤ちゃんを抱っこする体験を提供</li> <li>・継続的なつながりづくりや、さらなる経験のために、子育てひろばでのボランティアの機会の提供</li> </ul>			5

##### 【特筆すべき事項等】

- ・下笠居中学校 2 年生 27 名 ボランティア受け入れ 3 名(高松ひろば)
- ・勝賀中学校 3 年生 6 クラス 190 名 ボランティア受け入れ 10 名(香西ひろば)
- ・附属高松中学校 3 年生 3 クラス 98 名

#### ⑥香川県 女性が輝くリーダー養成事業(女性リーダー)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
3,600,000 円	3 人	-	3,610,675 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 研修実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動や組織・グループのリーダーになった、もしくはこれからリーダーを目指す女性等を対象に、全 6 回の研修を実施。</li> <li>・研修時の動画を撮影し、振り返りや欠席者フォローのため配信</li> </ul>			5
② 女性ネットワーク「おいり」の意見交換会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のネットワークの活性化の契機となる取り組みとして、意見交換会を企画・運営</li> </ul>			5

##### 【特筆すべき事項等】

- ・7 月 19 日～1 月 21 日の間 全 6 回講座 参加者 28 名のうち修了証書授与 28 名
- ・2 月 10 日香川の女性ネットワーク「おいり」研修会・交流会『女性の視点で働きやすさとやりがいをデザイン！ AI で創る職場の未来』開催 ・メイン講師 谷益美さん(株式会社 ONDO)

## ⑦高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
1,920,000 円	5 人	-	1,923,399 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 企画立案・進行・運営管理	・高松市の放課後児童支援員認定資格研修の実施			5

### 【特筆すべき事項等】

・10月8日から11月5日にかけての全4日間実施 受講者66名

## ⑧香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
2,356,000 円	3 人	-	2,368,968 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① メンター研修	・導入研修(企業経営者及び人事労務担当者並びにメンター候補者)、基礎研修(メンター候補者)、フォローアップ研修(メンター候補者)2回の実施 ・研修の期間中の伴走支援			5
② 女性ネットワーク「おいり」の実施	・参加者のネットワークの活性化の契機となる取り組みとして、意見交換会を企画・運営			5

### 【特筆すべき事項等】

・8/9 導入研修 参加 20社 40名 ・9/11 基礎研修 参加 21社 28名 ・1/14 フォローアップ研修 参加 19社 21名

・講師 太田和也さん(四国生産性本部)

・仕様書で、参加企業数については20社程度、うち、新規10社以上が目標であるところ、21社の参加、うち、新規14社が参加

## ⑨香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
977,000 円	3 人	-	1,022,919 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 「美容-eki」フォローアップ用資料の発行	・美容-eki 新聞として年3回発行 1回目はリーフレット形式で制作し、登録店舗に発送 500部 2回目、3回目は A4 両面 ホームページに掲載とともにデータ送付 CANVA を使って、内部での制作を目指す			5
② 希望がある際の認定講習会の実施	・わははネット全事業において関わる企業に向けて、常に情報発信をしながら、希望を募る			5
③ アンケート調査	・既存の認定店舗の顧客に対してアンケートの実施→インスタグラム活用 ・既存の認定店舗 60 店舗に対してヒアリング又はアンケート →香川県美容業生活衛生同業組合 新春のつどいで直接アンケート実施			5
④ 店舗への働きかけ	・メールマガジンを毎月発行			5
⑤ WEB サイトの管理	・登録店舗情報の変更 ・特色ある取り組み実施店舗を6回以上 HP で紹介			5

【特筆すべき事項等】

- ・11/26 縁結び・子育てサポーター認定講習会 2 店舗 3 名
- ・12/10、12/17 日本生命相互会社認定講習会 27 店舗 52 名
- ・2/3 美容組合認定講習会 98 店舗 103 名 【受講者：全 4 回 158 名】
- ・令和 6 年度新規認定店舗 美容-eki: 14 店舗、子育てサポーター: 18 店舗

⑩香川県 男性の家事・育児推進事業(男性家事育児)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
2,900,000 円	5 人	-	2,906,297 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 家事・育児実践追う講座の実施	・県内各地(西讃・中讃・東讃・島しょ部)でえ全 8~10 回の講座を実施。子育て家庭をメインターゲットとしながら、特に男性の参加が見込めるようにする。			5
② 情報発信	・開催報告について、都度「colorful」に掲載			5

【特筆すべき事項等】

- ・講座 7 月 30 日~1 月 19 日の期間で 8 回実施  
参加者 延べ 230 名(子どもを含む)  
7/30 高松市 讃岐おもちゃ美術館こうぼう・9/7 土庄町 きよみ保育園・10/11 高松市 高松大学・高松短期大学  
10/20 さぬき市 志度公民館・11/2 高松市 高松大学・高松短期大学・11/10 丸亀市 岡田コミュニティセンター  
1/11 三豊市 マリンウェーブ・1/19 高松市 讃岐おもちゃ美術館 Café
- ・講師 パッククッキング実践講座: 池田奈央さん お片づけ講座: わきやさゆりさん  
夫婦のパートナーシップ講座: フルイカズキさん、佐野崇之さん 漫才コンビ“二者面談” 山下アキさん

⑪香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション) **新規**

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
3,122,000 円	3 人	-	3,124,693 円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 研修会企画	・「かがわ子育てステーション」の登録団体の支援者同士のネットワーク構築を図るための交流会や、質の均質化を図るための研修を 5 回程度テーマを変えて企画			5
② 研修会・交流会実施	・地域ごと(西讃・中讃・東讃・小豆)で、研修会と交流会を実施			5

【特筆すべき事項等】

- 令和 6 年 6 月から令和 7 年 3 月まで計 5 回研修開催
- 6/17 キックオフ研修会(池田知事挨拶) 54 名 ・8/7 第 1 回研修会(小豆島会場)【対面】8 名 【オンライン】7 名
- 9/13 第 2 回研修会(丸亀会場) 28 名・1/10 第 3 回研修会(高松会場) 41 名
- 3/5 第 4 回研修会(三豊会場) 31 名
- 講師: 川田学さん(北海道大学)、渡邊頭一郎さん(日本福祉大学)、伊藤篤さん(甲南女子大学)、金山美和子さん(長野県立大学)、荒井和樹さん、加藤早耶香さん(全国こども福祉センター)、奥山千鶴子さん(NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会)

## 【自主事業】

### ⑫子育て情報誌『おやこ DE わはは』 特別号(2回発行)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
-	3人	0円	2,487,650円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 企業の要望に応じて、特別号としての発行	・5月発行(前年度3月より制作開始) テーマ 親子で取り組む口育のすすめ(しんじ歯科) ・7月発行 テーマ おうちにかかるお金の教科書(住宅金融支援機構)			5

【特筆すべき事項等】 1社スポンサーで特別号の発行・5月(株)tao. 7月DTPプラスへの制作外注

\*『親子で取り組む口育のすすめ』 5/15発行 \*『おうちにかかるお金の教科書』 7/15発行

### ⑬わははファミリーフェスティバル

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
-	8人	4,543,000円	4,409,625円	4
実行して成果があがったこと				評価
① 11/17(日) イベント開催	・新スタッフ体制で70ブースの企業ブース出展を目指す ・昨年度に続き、応援ブースを設定、案内を進めるとともに、法人内、おもちゃ美術館等とも連携して、イベントを作ることができないか検討を進める			4

【特筆すべき事項等】

・角ブース:41/44 通常ブース:20/26 応援ブース:8/7 ステージ 6/5

・食ブース:11/10(キッチンカー協会、エムアール・プラス)

・今年度より、設営業者の変更、資材の高騰等で支出の増加が見込まれるため、ブース料金を昨年度より1割程度値上げして実施した

### ⑭子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
-	3人	6,600,000円	6,738,100円	5
実行して成果があがったこと				評価
① 掲載広告の獲得	・誌面の20パーセント以内で、広告の募集を行う。			5
② 冊子の情報改訂	・関係各所に情報の変更がないかどうか確認し最新の情報に更新を図る			5

【特筆すべき事項等】

・令和7年度版 令和7年5月1日発行 (広告営業スタート 令和7年1月～)

## 讃岐おもちゃ美術館事業部

事業費	スタッフ	目標値	実績(目標達成率)	評価
入館料収入 33,847,026 円(99.6%)	週 5 3	①入館者数	43,697 人(95.0%)	4.3
寄付金収入 2,503,100 円(41.7%)	週 4 2	②有料入館者数	36,951 人(99.9%)	
外部コラボ収入 2,024,920 円(25.3%)	週 3 1	③団体利用数	67 団体(117.5%)	
	週 2 3			

### 目標 ワクワクを用意する

	実行して成果があがったこと	評価
①すべての子どもたちにワクワクの機会を提供する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1..医療的ケア児無料貸切 在宅療養ネットワークコラボ 年1回達成 6/22</li> <li>2. 社会貢献活動貸切開館(移住者交流会・高松ロータリー・ツインズ等)</li> <li>3. 団体利用促進のために、5 月にチラシ発送。利用アンケートフォームを作り、お礼状の送付の仕組みを整えた。アンケート回収 29/40 件 大変満足と答えた割合 100%</li> <li>4. 高松市連携協定、出生時赤ちゃん無料チケット 6 月配布開。16 枚利用</li> <li>5. 出張おもちゃ美術館 開催規模によるパッケージ化。7 回/年実施</li> <li>6. 県内の子育て支援施設に、平日こども無料チケットを配付。</li> </ol>	5
②子どもたちのワクワクを支える	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スタッフのおもちゃの知識向上のために、「あそびのむし」オンラインで担当が学んだことを、横展開。スタッフへは終礼で、スタッフからおもちゃ学芸員へのレクチャーは朝のミーティングの時間に実施。</li> <li>2. おもちゃ学芸員養成講座 2 回開催。34 名のおもちゃ学芸員誕生。</li> <li>3. 投扇興のイベント実施をおもちゃ学芸員を中心にスタートした。</li> </ol>	4
③おもちゃ学芸員さんのワクワクを創り出す	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. おもちゃ学芸員感謝祭 9/7(土)27 名 おもちゃ学芸員遠足 3/6(木)実施 14 名の参加。</li> <li>2. 年間 2 回のおもちゃ学芸員養成講座で誕生したおもちゃ学芸員がスタッフ除き 30 名。そのうち、3 月時点で活動実績 15 名(50%)</li> <li>3. おもちゃ学芸員の活躍の場として、おも学SHOPを年 2 回8名の参加、ゴールデンウィークと、ファミフェス内で開催。</li> </ol>	5
④スタッフもワクワクを感じながら	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来館者 10 万人を 8/5(月)に達成。くす玉と鉛筆立ての記念品を贈呈。</li> <li>2. 先を見通しての年間カレンダー、研修の計画、イベントの準備等、少しずつ現場スタッフ自ら動いて、予定していけることが増えてきている</li> </ol>	3

#### 【特筆すべき事項等】

- ・出張おもちゃ美術館の依頼を受けて、外に出向いていく機会ができた。経験を積むごとにスタッフ体制、持参するおもちゃの物量、ワークショップの内容等、パッケージ化してスムーズに準備を進めることができるようになった。
- ・休館日や、閉館時間の活用についても、外部からの依頼が少しずつ増えてきた。
- ・団体利用の際に、お礼状に集合写真を添えて送り、アンケートの回答を依頼。来年度に向けては、アンケート内容を精査しながら、より次に繋がるものへと検討したい。
- ・スタッフを 1 名増員したものの、やはり日によってはシフト回しが厳しい時もあるが、スタッフ同士助け合いながら、またおもちゃ学芸員の協力を仰ぎながら進めることができてきた。しかしながら、引き続き心理的余裕をもちながら業務に向かえる環境にいて検討していくことの必要性を感じている。
- ・継続的な企業からのサポーターの仕組みづくりについては、引き続き次年度に向けて実施を検討。

## 子育て支援部

### 【1】 わはは・ひろば高松（高松ひろば）

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,714,000 円 地域子育て支援拠点事業費	正 1 P 3	① 総利用者数 5,500 ② 登録組数 410組 ③ 新規組数 300 組 ④ マタニティ登録数 20組	① 5,510 人 ② 404組 ③ 310組 ④ 20 組	4.7

### 【今年度の目標】 多様な人との出会いや交流を生み出すひろばづくり

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1. 地域とのつながりづくり (重層的支援体制整備事業)	1. 大学生やボランティアと、地域交流イベントの実施 20周年記念イベント 18 組・ハロウィン散歩 7組参加 予約組数／満足度100% 2. 高松市内中学校3校ふれあい授業参加 ・職場体験の受入 3校 香川保健医療大学実習受入 72名 継続的に活動に参加する学生ボランティアが増加している。	5
2. ひろばの早期利用の促進	1. 妊娠期の方向け講座(年 6 回)では、「ねんねちゃんの会」と合流し、先輩ママと交流する機会を設けた。妊娠中の不安や産後の生活について話すことで、不安の軽減や情報共有ができ、産後早期の利用につながった。新規 マタニティ登録 20組	5
3. イベントの充実	1 赤ちゃん向けのイベント内容をニーズに沿った内容に変更したことで、低月齢からの利用につながった。0歳児登録 47% 2. ボランティアを主体として「外国人親子の日」を実施し、外国人の親子が安心して利用できるひろばづくりに取り組み。外国籍の新規登録 10 組 3. 香西ひろばと協働で、讃岐おもちゃ美術館や公園に出向き交流をはかった。(年 4 回)	4
4. スタッフのチームワークづくり	1. 香西・高松・CN でのエリアミーティングの実施(月 1 回) 地域交流など進捗状況を共有し、全員で高松市内の子育て家庭を支えていけるよう取り組むことができた。 業務担当者同士でのミーティングを実施し、業務の効率化につなげることができた	5

#### 【特筆すべき事項等】

- 1-1 20周年祭では、地域の学生やこれまで利用してくださった方々と一緒に、記念品を制作することができた。また、ボランティアの登録者数も 16 名となり、前年度の 2 倍に増加。多くの子育て家庭とつながることができた。
- 2-1 プレママ講座に参加した妊婦さんと、生後まもない赤ちゃんを持つ保護者の方との交流の時間を設けたことで、妊婦さんにとっては産後すぐの生活を具体的にイメージするきっかけとなり、先輩ママにとっても出産前の気持ちを思い出す良い機会となった。また、互いに交流することで、つながりを深めることにもつながった。
- 3-2 外国人ひろばの定期開催を通じて孤立防止に努めた結果、外国籍の親子 10 組の登録になった。
- 4-1 高松エリアでは、月に一度のエリアミーティングを実施した。地域交流に関する業務については、担当者同士が個別にミーティングの機会を持った。その結果、スタッフ同士の交流が深まり、多様な家庭とつながるきっかけになった。

## 【2】 わはは・ひろば高松（たかまつ地域子育て支援コーディネーター）

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,686,000 円 利用者支援事業費	正 1 P 2	相談件数(継続) 36 件 情報提供(相談) 500 件	相談件数(継続) 88 件 情報提供(相談) 701 件	4

### 【今年度の目標】 一人ひとりが孤立せず安心して子育てできるように予防的視点を持ち身近な相談相手になる

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1 情報提供	1, 妊娠中の方、子育て中の保護者に向け、新しい子育て情報やイベント告知、報告を SNS・HP に掲載した。 2, 幼稚園座談会・保育所座談会を高松・香西ひろばで開催し、座談会を通して情報提供を行った。⇒定員に対するイベント予約率 100%。目標 85%達成。 3, CN のひろば滞在時間を増やし、香西ひろばの出張相談回数を 8 月から月 2 回にすることで情報提供の機会を増やした。	5
2 相談	1, 定期訪問先と連携を取り CN につなげてもらう仕組みを作った。出張相談件数、前年度 200 件から 374 件に増加。総情報提供数は 464 件から 701 件となり、151%増。相談回数が増えたこと、コーディネーターのスキルアップにより相談先からつないでもらう機会が増えた。 2, 相談の振り返りを行い、必要な地域資源への理解を深めていけるよう努めた。	4
3 広報	1, ひろば掲示板にイベント告知や月 1 回テーマを決めて記事を掲載した。⇒CN 業務の認知度 64%。目標の 80%未達成。 2, 通信や HP、SNS など定期的に CN 紹介、ひろばイベント(転勤族の会、赤ちゃんひろば、ねんねちゃんの会、デビューデー)に参加し、顔を知ってもらうことで安心して相談できる相手となるよう努めた。 ⇒CN 相談したことある 68%。目標 70%未達成 新規利用者で CN を知っていると答える人 64%。目標の 70%未達成。	3
4 他機関連携	1, 他機関と顔の見える関係づくりのため、施設訪問を行いお互いの役割を知ることができた。 2, お仕事座談会など他機関との協働イベントを開催。HP や SNS の報告で CN が様々な機関と繋がっていることを利用者にも知ってもらうよう努めた。 ⇒他機関連携ケース(延べ相談総合件数のうち 4% 目標の 10%未達成)	3
5 資源開発	1, 夫婦のカタチ 66%、妊娠期・メンタルヘルスのイベントを定期開催することで早期からの継続的な来館や相談につなげられるよう努めた。 ⇒設定予約数に対し 88% 目標 60%達成。	4
6 チームワークを高める	1, 月 2 回のミーティングでそれぞれの業務内容の確認や困りごとの確認を行った。 2, 他部署とお互いにイベント広報や情報提供など情報誌・SNS を活用して行った。	5

#### 【特筆事項】

- 1-1 情報不足からくる子育て不安を解消するため、新しい子育て情報や制度について必要な時期に情報発信するよう努めた。7年度 4 月からは地域子育て相談機関となったので情報発信をさらにすすめたい。
- 4-1 予防的視点を持ち家族の困りごとを早期に把握し、地域の関係機関との関係をより深め、連携し支援ができるよう取り組んだ。  
西宝町みんなの居場所、高松市社会福祉協議会訪問、まるごと福祉の定例会などに積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努めた。
- 5-1 妊娠・出産に対する不安を軽減し、妊娠期からひろばに来ることで子育てが孤立してしまうことがないように、年間を通してプレママ・プレパパ講座を実施した。ひろばで先輩ママやパパと交流する時間を取った。高松マタニティイベントからの登録 20 人。まだ相談は少ないが産後のひろば利用や電話相談でつながることも増えてきた。
- 6-1 コーディネーター一人一人の個性を生かし、たくさんの人に安心して相談してもらえるよう、スキルアップに努めた。

### 【3】 わはは・ひろば香西

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
10,306,000 円	正1	① 利用者数 4,500 人	① 5,559 人	4
地域子育て支援拠点事業	P5	② 利用組数 240 組	② 306 組	
+ 重層的支援体制整備事業		③ 新規利用組数 140 組	③ 197 組	

#### 【今年度の目標】 様々な人とつながるひろば

	今期の重点行動予定	評価
① 妊娠期、低月齢からの利用促進	1. 妊娠期用のチラシを作成。 2. 産婦人科の母親学級へ訪問する(12回/12回)100妊婦さん向けのイベントの開催(6回/6回) 3. 継続利用を増やす(43%/40%)	4
② 地域とのつながりを広げる (重層的支援体制整備事業)	1. 子育てサークルなど地域への訪問(20/20回) 2. 高松ひろばと共同で地域活動を行う(公園イベント) 3. 多世代交流イベントの開催(2回/2回) 4. 学生ボランティアの募集を行う(4人増)	5
③ イベントの充実	1. アンケートを実施し子育て家庭のニーズを把握する(2回/2回) 2. 大人のリフレッシュイベントの開催(11回/12回) 3. 新規枠を作成し、4か月児相談の訪問時に案内する(12回/12回)	4
④ 情報発信	1. 他部門のイベントを SNS にて広報する	3
⑤ スタッフの連携	1. 週1回のスタッフミーティングを行う 2. ホワイトボードを活用し業務の進捗の共有 3. 高松エリアミーティングを行う(12回)	4

#### 【特筆すべき事項等】

- ① -3 妊婦さんに興味を持ってもらえるイベントを開催。高松ひろばと合同で行うことでイベント内容や広報など広く行う。また、ネット予約を取り入れ利用促進を行う。19人の初産婦さんの登録につながった。
- ① -4 マンスリーフォト週間を開催し、低月齢の親子からの継続利用を増やし、利用者数が増加につながった。
- ② -1 昨年度から継続して地域の子育てサークルへの訪問を定期的に行い、その他地域子育てステーションの西宝町みんなの居場所(こども食堂)に訪問を行った。出会った全体の先生にひろばにも講師として来ていただくなど新たなつながりが生まれた。
- ③ -4 学生ボランティア募集のチラシやポスターを作成し、学校等へ配布し、ボランティア登録につながった。
- 2 昨年度末に実施したアンケートで上位になったリフレッシュイベントを毎月開催。新規利用は増えなかったが、讃岐おもちゃ美術館からおもちゃをお借りし大人同士で遊びながらティータイムを楽しむ姿があり、利用者同士の交流につながった。
- また、利用者ボランティアの活動の場としても利用し、ひろば卒業し地域で活躍する先輩ママと利用者との交流にもつながった。
- ⑤ -1 スタッフの増減やシフトの関係で時間の確保が難しく、普段の朝礼で共有ができるシステムをつくりたい。
- ⑤-3 高松エリアとして活動することでスタッフ同士が助け合える関係を築くことができたように思う。今後は活動の幅を広げていけるようにしたい。

## 【4】 わはは・ひろば坂出

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,639,000 円	正 1	①総利用者数 4,500 人	① 4,152 人	4
地域子育て支援拠点事業費	P 3	②登録組数 170 組	② 154 組	
+駐車券補助 150,000 円		③新規組数 110 組	③ 91 組	

### 【今年度の目標】 親と子の居場所となる

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
1. 赤ちゃん期からの利用の促進	1. 健診訪問実施。赤ちゃん向け通信を作成し配布。(12 回/12 回) 2. SNS(0 歳の様子を伝える投稿)を月 2 回以上投稿。計 51 回投稿。 3. プレママ&赤ちゃんひろば開催。(24 回/24 回)	4
2. 親子が安心できる場づくり	1. おしゃべりタイム、お楽しみタイム開催(年 11 回 5 月～) 利用者の交流促進のために STM からおもちゃを借りて活用。 2. 月 1 回、また必要に応じて 3S 活動を実施。ひろば利用者視点での環境整備。備品の見える化。	5
3. 利用者の力を活かしたひろばづくり (ボランティア活動)	1. ボランティア募集ポスターを作成。利用者に周知した。 2. イベントの前後にボランティアメールを配信。(年 6 回) (ボランティア登録17組 活動のべ28人) 3. リサイクルフリマをボランティアと連携して開催(年 2 回) 4. ボランティア交流会開催(年 1 回)	4
4. スタッフの連携とスキルアップ	1. スタッフファイル作成、計画書やシフト、連絡事項の確認に活用。 2. まろっこひろばとリーダー交換研修を実施。(7 月より週 1 回) 3. 外部研修参加計 16 回(全スタッフ 1 回以上受講)	3
5. 地域との継続的なつながりづくり	1. 地域のイベントに合わせて開館し利用者とは出かける。(年 12 回) 2. 地域の夏祭り時に、赤ちゃん休憩所として夜間開館(8/3 25 組 72 人) 3. 地域の支援者や関係機関と連携したイベント実施。年 88 回 4. まろっこひろばと連携しておもちゃ美術館遠足を実施。(年 1 回) 5. 地域の高校生ボランティア受け入れ(夏季休暇中のべ 15 人)	5

#### 【特筆すべき事項等】

- 1-2 SNS にて 0 歳児の利用を伝える投稿を増やすとともに、毎日、翌日のイベント情報やお知らせをストーリーズ投稿し、親子の来館のきっかけとなるようにした。
- 2-1 前期振り返りにておしゃべり会の内容を再考し、参加しやすくするためにお茶会にリニューアル。参加者の意見からゲームを取り入れ、ひろば所有に加えてさぬきおもちゃ美術館から借りて実施した。前期より参加者が 30%増加。
- 3-1 ボランティア登録は昨年度より増え 17 組となったが、育休復帰などで実際に活動できた方は約半数だった。今後は通年登録でなく活動の期間を決めて、無理なく参加できる仕組み作りを進めている。来年度から実施予定。
- 3-4 ボランティア同士の交流促進のため、お茶会、足型作品作りを企画。7 組 17 人参加。
- 4-2 まろっこひろばとリーダーが交換して勤務することで、お互いのひろばの状況が分かり、スタッフとの交流が広がった。R7 年度も継続して実施し、坂出エリアの連携促進に努める。
- 5-4 まろっこひろばと遠足イベントを開催。両ひろばの親子が交流し、地域に出て体験する機会となった。(7 組 14 人)
- 5-5 地域の高校生ボランティアを募集し夏休みに遊びのボランティアとして受け入れた。子どもは親以外の人と触れ合い、保護者は子どもが成長した姿を想像するなど貴重な交流の機会となった。地域の子育ての状況に興味を持ち、自主研究でひろばを取り上げて学校で発表するなど、高校生にとっても地域を知る機会となったことが感じられた。

## 【5】 さかいで子育て支援センターまるっ子ひろば(センター)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
6,236,000 円 センター管理事業費	正 1	①総利用者数 15,000 人	① 16,565 人	4
		②新規組数 600 組	② 566 組	
	③登録組数 300 組	③ 359 組		
300,000 円 フェスティバル事業費	④日祝利用者数 2,000 人	④ 2,358 人		
		フェスティバル(親子) ①64組 211人		
		フェスティバル(妊婦) ②24組 47人		

### 目標【安定した館の運営と幅広い層(妊娠期～学童期)の利用者増加を目指す】

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 自主事業	1.リサイクルデー年 2 回(5、11 月)開催。学童期の保護者のニーズを満たすため子ども服のサイズを 140 cmまでに拡充。 2.妊娠期対象のフェスティバル(7 月)、子育て世帯対象のフェスティバル開催(10 月)。 3.ライフジャケット無料貸し出し。年間延べ利用者数 17 人。 4.学童期向けの図書貸し出し。年間利用者数218名(目標利用者数120人)。	4
② 職場環境を整える	1.毎日の朝礼、月 2 回のスタッフミーティング、LINE WORKS を活かして全スタッフが館全体の業務やスケジュールを共有した。 2.3Sについて年間計画を立案、毎月スタッフ間で共有・実行、報告を行った	3
③ 広報の充実による利用者増	1.HP・SNS に館の情報を月に 2 回掲載。 2.毎月地域の回覧板を発行した(発行部数182部/月)。	5
④ 施設管理	1.備品、消耗品の在庫管理の消費ペースを把握し、計画的に購入。 2.毎日の館内清掃、敷地及び近隣との隣接箇所の清掃・美化、閉館後のおもちゃの消毒、清拭などの衛生管理を行った。 3.窓、エアコンフィルターなど館内大掃除を年2回行った。	4

### 【特筆すべき事項等】

- ①-1 対象を学童期まで広げることで、物品提供者、利用者ともにより幅広い利用ができるため好評であった。
- ①-2 今年度より、坂出市のパパママ学級をまるっ子ひろばで開催することとなり、そのうち 1 回が妊娠期対象のフェスティバルの中で行われた。子育て世帯対象のフェスティバルでは、昨年のアンケートを参考に、坂出市内の子育てに関する情報ブースを新しく設置した。まるっ子ひろば・わはは・ひろば坂出の利用者を対象に情報収集を行い、ブースの掲示物作成にあたってはサポーターズの協力を仰いだ。
- ①-3 新規登録の際に説明し周知を図った結果、アンケートでの認知度は 66%であった(前年度 59%)。また利用者数は前年(13 名)と大きく変わらなかったためより効果的な周知・広報が必要である。
- ①-4 (公財)明治百年記念香川県青少年基金による「子どもの読書推進活動支援事業」助成金の獲得とブックオフサステナブックプロジェクトの当選により本が増冊され、学童期の利用につながった。また、前述の助成金により、利用者親子ともに読書に親しめるイベントを計画実行した。
- ②-1 LINE WORKS の予定表、フォルダ、ノート機能を活用し館全体のスケジュール、情報共有を図った。
- ③-1 お知らせ事項、イベントの周知などを年間計画を立て実行した。それ以外にもまるっ子文庫の図書の増冊や読書イベントの広報、警報発令による休館、一時預かり予約のキャンセルなどの突発的な情報発信、また求人募集のために活用した。
- ③-2 イベントの告知・報告だけでなく新しいスタッフの紹介や既存のスタッフのコラムを毎月掲載し、館のことに加えスタッフについても知ってもらえるよう工夫した。

## 【6】 さかいで子育て支援センター(まるっ子ひろば)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
8,575,000 円 地域子育て支援拠点事業費	正1 P3	①総利用者数 8,000 人	① 8,991 人	4.2

### 【今年度の目標】 妊娠期からの切れ目ない利用促進

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 赤ちゃん期の利用の促進	1.0 歳児 271 人登録の内、坂出市 134 人。(坂出市内出生に対して 56%の登録) 2.パパママ教室参加からひろば利用に 33 %(12 人)つながった。	3
② 情報発信	1.インスタグラムを毎日、まるっ子ホームページを週 2 回投稿した。 2.新規に向けた記事を投稿した。 3. 健診(3.4 か月、1 歳 6 ヶ月)でチラシを配布した。3,4 か月健診では、ひろばスタッフが出向きひろばについてお知らせした。(年 3 回、155 人)	4
③ 利用につながるイベント	1.専門家の情報提供や座談会、先輩ママとの交流会、母のお楽しみイベントなど、テーマを決めて毎月赤ちゃんひろばを行った。(719/600 人参加) 2.ひろば利用のきっかけとなるよう、毎月ひろばデビューデーを開催した。(92/80 人登録)	5
④ サポーターズの活躍の場を作る	1.まるっ子サポーターズにサポートとしてイベント参加する機会を設定した。(6 回 16 人参加) 2.サポーターズの声を聞く場を作った。	5
⑤ スタッフ連携	1.週 1 回ひろばミーティングを実施。業務の進捗状況の確認や情報の共有を行った。 2.研修参加(15 回)	4

#### 【特筆すべき事項等】

- ①-1 目標の人数には届かなかったものの、0 歳児全体の登録は 271 人と前年度に比べ増加した。まるっ子ひろばだけでなく、坂出市内の子育てひろば・支援センターとつながるという視点で考えていきたい。また、パパママ教室や伴走型相談事業が始まり、妊娠期にまるっ子ひろばに来館し知ってもらう機会は増えたが、産後の来館になかなかつながらなかった。産後早期のひろば利用につながる手立てが課題であると感じた。
- ③-1 赤ちゃんひろばのおしゃべり会では、様々なテーマで話すことで育児の悩みを相談したり共有するだけでなく、子どもの成長をともに喜んだり、世間話を楽しんだり、情報交換の場であり息抜き場となっている。
- ④-1 ひろばの中で気になることを気軽に聞ける、頼れる存在を増やすことを目的とし、赤ちゃんひろばに先輩ママとしてまるっ子サポーターズが参加。赤ちゃん家庭の困りごとや質問に答えたり交流したりすることで、つながりが出来ただけでなく、サポーターズにとっても誰かの役に立ったと感じることができた。その後ひろばで会った時も関わる姿が見られている。
- ④-1 7 月から坂出ひろばと週に 1 回のリーダー交換研修を実施。研修後には振り返りをし、気づきや困りごとを共有した。また、坂出エリアのミーティングを行ったり、合同でイベントを行ったりと、坂出エリアとしてのスタッフ連携を図った。

## 【7】 さかいで地域子育て支援センター(さかいで利用者支援コーディネーター)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
7,782,000 円 利用者支援事業事業費	正 1 P1・委託 1		延べ 620 人 (継続:509 人・情報提供 111 人)	4.2
【新規】 141,100 円 伴走型相談事業		① 100 人 ② 78 人	① 574 人 ② 28 人	

①妊娠中の方、及びその家族のまるっ子ひろば利用延べ人数100人 ②電話対象者の 1/3 の面談実施

### 【目標】妊娠期からの早期支援

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 妊娠期からの 情報提供	・パパママ教室・8カ月伴走型面談より拠点利用率が想定(約半数)していた人数より少なかった。 ・拠点利用率は低かったが、介入した妊婦さんは拠点利用につながった。	3
② 身近な相談相手	・ひろばと共同イベントを月 1 回以上実施。助産師相談会/月・赤ちゃんひろばにてコーディネーターとの座談会を実施。 ・ひろば滞在時間を確保し顔が見える関係性の構築とコーディネーター相談認知も定着してきている。(75%登録時アンケート相談できることを知っている)	4
③ 【新規】 伴走型相談支事業の実施	・伴走型面談 53 件/266(希望者 28 件・電話連絡による 25 件) パートナーとの参加 11 件(20%) ・アンケート未回答者電話連絡 89 件 アンケート未回答者へのアプローチから面談希望となる率 47.9%直接、プッシュ式アプローチが有効であった。	5
④ 他機関連携	坂出市こども課の協力にて坂出市ひとり親に関する制度や支援に関する情報提供は1回実施。その後の支援連携にもつなげることができたのも成果としてあげられる。2 件	5
⑤ スタッフ連携	・コーディネーター主催イベントや講座の目的・予約状況など朝礼時に共有することでスタッフとの共有ができるようになった。 ・コーディネーターは新規事業・相談委託・異動に伴う新体制となり、月・週・日々の振り返りマニュアル作成など業務の可視化を行うことで滞りなく業務を行うことができた。	4

### 【特筆すべき事項等】

- ・ 出産準備 BOOK(伴走型面談用冊子)を使用して面談を行うことで、面談者の課題意識がない項目も拾うことができ、特に第 2 子の発達相談など改めて相談場所として繋がることになった。
- ・ 伴走面談の相談内容としては第 1 子の方は保育所入所について、次いで赤ちゃんとの生活がイメージできないという内容が多かった。第 1 子は分からない事が分からないとの声が多く、助産師より産後の体調、赤ちゃんとの母乳育児を中心とした話をする事で生活をイメージし安心につながった。
- ・ 年間を通しての相談内容としては保育所入所とそれに伴う不安が多く、続いて発達・療育機関に関する相談も増えている。ダブルケア・ひとり親・医療的ケアに関する事など相談内容も多様化し増加した。要因としては伴走型面談、継続して行っている他機関との相談日の認知の広がりが考えられる。
- ・ 伴走型面談・パパママ教室の参加者のうち拠点利用者は約 30%だった。効果としては予想より低く、来所につながる動機づけが来年度の課題である。

## 【8】さかいで子育て支援センターまるっ子ひろば(一時預かり事業)

事業費	スタッフ数	目標値	実績	評価
,107,000 円 一時預かり事業費	P 2	① 新規数 50 人 ② 預かり枠数 450 人	① 60 人 ② 639 人	4.5

① ②

### 【今年度の目標】 子どもの成長を感じられる保育を行う

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 利用人数	1.ひろばイベントにて説明会を年4回実施。イベントでの新規登録数18人 2.ホームページ投稿内容の年間計画を作成し、月1回更新を行った。	5
② 保育内容	1.アンケートの「子どもの成長を感じたか」に対して、「感じる事ができた」との回答が98/80%以上と目標達成した。 2.子どもの発達についての研修を受けた。	4
③ 保護者対応	1. お迎え時に保護者に個人記録の写しを渡し、預かりの様子や子どもの成長を共有した。	5
④ 他機関連携	1.週1回一時預かりミーティングを実施。 2.各部署と進捗状況の共有を密にし、各部署同士で相互サポートを行った。	4

#### 【特筆すべき事項等】

- ①-1 ひろばでの一時預かり説明会では、保育士から直接話を聞く場を設けることで、不安や疑問を個別に質問できることが安心につながったと考えられる。年度末に向けて預かり希望者が増え、予約が取りづらく感じる時もあったが、スタッフのシフトを調整し、その都度予約の取り方を協議することで対応した。
- ①-2 保育室以外にひろばや交流スペースで過ごすことで、多くの人とかかわれる機会をつくった。また、ひろばのイベントに参加することで、他の親子とかかわりながら成長や発達に応じた経験をすることができた。Instagramに預かりの様子を投稿することで、利用者が子どもの日々の過ごし方を把握でき、成長の様子を感じる事ができた。また、閲覧者にとっても、保護者と離れている時間の子どもの様子が伝わる良い機会となった。
- ②-1 個人記録を利用しながら、丁寧に保護者対応をおこなった。送迎時の聞き取り内容や一時預かりでの様子を記入し、保護者に写しを渡すことで保育士と情報を共有できるようにした。情報の差異を防ぐことが安心にもつながったと感じる。また、初めての預かり時・最後の預かり時・誕生月には写真入りカードをプレゼントした。アンケートの「安心して預けられたか」に対して、「はい」との回答が100%であった。
- ④-1 業務の進捗状況の確認や、預かり時の子どもの様子や預かり中の困りごとなどの情報を共有することで、預かりスタッフの連携が密に行えた。
- ④-2 朝礼時に、前回の預かり時の様子やアレルギーの有無などをスタッフに共有することで、他部署スタッフと連携し、安心・安全な保育ができる体制をとることができた。また、預かりの空き時間を活用し、ひろば業務や事務作業、環境整備などのサポートを行うことで、他の業務の状況理解へつながった。